

群馬県立富岡特別支援学校 学校評価一覧表（令和6年度版）

（様式）

羅 針 盤			学部・分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目			自己 評価	外部アン ケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	① 学校からの通信等で情報を発信し、保護者の80%以上が「学校の様子や生活がよく分かる」と感じている。	教務部 地域連携部 各学部	○ 学校より、学年通信等で児童生徒の活躍の様子を速やかに伝えるとともに、送迎時や電話等で、児童生徒の様子について積極的に情報交換をする（週1回程度）。 ○ 学校のWebページを随時更新し、学習の様子をタイムリーに伝える。	A	A	A	・ 日常的な保護者との情報交換を丁寧に、各種たより等で児童生徒の様子を速やかに伝えることができた。 ・ 地域の方へは、市役所での喫茶サービスや販売会、また、地域行事への高等部生徒の参加を通して、本校の教育活動について知っていただくことができた。	・ 今年度も、地域の行事に積極的に参加してもらった。地域のひととの距離が近付いてきたと感じる。同覧板の「学校だより」も多くの人が読み、理解を得られている。継続してほしい。 ・ 地域づくりセンターでは、児童生徒の作品展や販売会、喫茶サービスなどを通して、交流やPRの機会を提供することができる。利用してほしい。	・ 地域での活動をさらに充実させ、地域に根ざした学校づくりを進めていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	② 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の内容について、保護者の80%以上が理解し、有効であると感じている。 ③ 各種交流及び共同学習について、保護者の80%以上が有効であると感じている。	各学部 教務部 各学部 交流部	○ 保護者面談や送迎時等で丁寧に保護者の意見や要望を聞いて、目標や手立てを確認するとともに、評価についても確実に説明する。 ○ 居住地校交流では担当者間の打ち合わせや保護者の説明を丁寧に、活動内容の改善・充実を図る。 ○ 各種交流及び共同学習の内容や方法の見直しや検討を行い、計画的、組織的に実施する。	B	A	A	・ 学期ごとの目標設定や手立てについて、達成状況を保護者と確認しながら情報を共有し、次学期の指導・支援につなげることができた。		・ Webページを整理し、より見やすく分かりやすく伝えていく。
	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④ 地域のこども園や小中学校等への電話・メール相談、来校相談、訪問相談を年間150件以上実施している。	地域連携部	○ 相談支援センターの広報紙や小中学校学校参観の案内を地域の教育福祉施設・機関に配付し周知する。 ○ 自校や地域の教職員を対象とした研修会を実施し、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。	A	A	A	・ 相手校との連絡調整を丁寧に、互いの児童生徒にとって有意義な活動となるように計画、実施することができた。 ・ 地域の学校との交流活動、校外活動などの学校周辺での活動も地域の人は見ている。接していくことで理解が深まり、身近に感じる。地域づくりを大切にしたい。		・ 地域の小中学校や高等学校との交流の充実を図れるよう、計画する。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセ	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑤ 全教員が本校の目指す児童生徒像のもと、本校の教育方針を理解して支援・指導をしている。 ⑥ 「個別の指導計画」に基づいた教員の支援・指導について、保護者の80%以上が満足している。	各学部 各分掌 各学部	○ 学習形態や学習集団を弾力的に変えながら、児童生徒の実態に合わせて、楽しく学べるように工夫をする。 ○ 必要に応じて学部、分掌等を越えた協力を行う。 ○ ラーニングマップやアセスメント表を活用して適切なアセスメントを行い、指導計画を作成するとともに、達成状況の評価や改善策の検討を学部内で行う。 ○ 保護者に目標や手立て、評価を分かりやすく具体的に説明する。	A	A	A	・ 児童生徒の実態に合わせた支援・指導を工夫し、実践することができた。 ・ 学習活動を通して、他の学部との交流の機会を設けることができた。		・ 校舎は離れているが、小中学校と高等部の児童生徒が交流する機会を増やす。実態に合わせて活動できるように工夫する。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑦ すべての教員が必要に応じてタブレット端末などのICT機器を活用し、児童生徒の学習指導を工夫して行っている。	各学部 教務部 (ICT係)	○ ICT機器の有効活用に関する研修や情報提供を行い、指導力の向上を図る。	B	A	B	・ 各学部において、日常的にタブレット端末を活用した授業を実施した。有効なアプリケーションの情報を共有し、学習効果を高めることができた。	・ 障害のある幼児児童生徒の理解や専門性の向上につながる講話や研修会を実施していく。	
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑧ 基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭と学校が連携し、学校の支援・指導に対して保護者の80%以上が満足していると感じている。 ⑨ 健康で安全な学習環境を整備し、各種感染症対策に全職員が組織的に取り組んでいる。	各学部 保健部 各学部 保健部 危機管理部	○ 連絡帳、個別面談、電話連絡等において、児童生徒の健康や生活について十分な情報交換を行い、協力して実施する。 ○ 保健だよりや学校保健委員会を通して、健康管理についての情報を共有し、意識を高める。 ○ 月に一回、安全点検を実施するとともに、日常的に教室等の学習環境を整える。 ○ 学校医の指示・指導に従い、感染防止対策を徹底する。	A	A	A	・ 児童生徒の健康や生活について、保護者と情報交換を行い、協力して取り組むことができた。 ・ 学校保健委員会の資料や保健だよりを保護者へ配付し、情報共有を図ることができた。		・ 生活習慣や健康について、児童生徒がもつ課題を明らかにし、保健だよりや学校保健委員会で取り上げる。また、家庭と連携しながら、一人一人の児童生徒に丁寧に対応していく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑩ 全職員が「危機対応マニュアル」を理解し、避難訓練を年2回、緊急時引き渡し訓練を年1回、緊急搬送訓練（個別）を実施する。	危機管理部	○ 「危機対応マニュアル」を見直し、迅速かつ的確な対応ができるようにする。 ○ 児童生徒への事前予告なしでの訓練や教職員の欠員がある場合での訓練等を行い、課題を見出し、臨機応変に対応できる体制を整える。	A		A	・ 火災、地震、不審者対応の訓練を実施した。引き渡し訓練では、確実に保護者に引き渡すことができた。「危機対応マニュアル」を見直し、作成した。		・ 実際の災害時における様々な事態を想定して、訓練を実施する。備蓄品や帰宅困難者が生じた際に必要な物資を再確認し、準備する。
	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑪ 教員の80%以上が、キャリア教育の視点を意識し、将来の就労・社会生活を意識して、児童生徒の長所を伸ばす支援・指導を実践している。	各学部 移行支援部	○ キャリア教育全体計画のもと、基礎的・汎用的能力の育成に学習活動全体を通して取り組む。 ○ 職業教育に関する研修会を行い、キャリア教育に係る教職員の理解を深める。	A	A	A	・ キャリア教育の視点を明確にした「進路だより」を発行した。 ・ 高等部卒業後の生活について、保護者を対象とした講演会を実施し、参加した保護者から好評をいただいた。		・ キャリア教育の視点を意識して指導内容を整理し、小学部、中学部、高等部へと続く、系統的な支援を行っていく。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑫ 個別相談や進路だより、研修会等の学校から提供される資料や情報が有効であると保護者の80%以上が感じている。	移行支援部	○ 企業関係者から得た情報や助言、卒業生・保護者の体験等を進路だよりで積極的に発信する。 ○ PTA施設見学会やPTA進路講演会を通して、卒業後の進路の選択肢について情報を発信する。	A	B	A	・ PTA施設見学会やPTA進路講演会を実施し、卒業後の進路の選択肢について、情報提供ができた。	・ 講演会や研修会などに保護者の参加が少ないところがある。もっと増やせるよい。	・ 小中学校の保護者の参加が少ない傾向があるため、積極的に参加を促し、情報提供の機会を多く作るとともに、興味関心をもってもらえる企画を立案する。